

『神の恵み②・敵意が和解へ』

'22/05/15

聖書箇所:エペソ人への手紙 2章 14-16 節(新約 p.375)

前回から、私たちは、神様が与えてくださる、「救いのすばらしさ」について学ぼうとしています。…そこで皆さんにお尋ねしたいのですが…、皆さんは、この聖書が教える罪からの救い…、また、救いの恵みというものを、どの程度素晴らしいと思っておられます？質問を変えますと、「自分が救われて本当に良かった！クリスチャンになることができて、心から感謝している！」と自信を持って言うことができます？

命題: 神が与えてくださった救いの恵みとは、どのように素晴らしいのか？

このような話をしましたのは…、実は時々、クリスチヤンと言われる方でも、「こんなことなら、クリスチヤンにならなければ良かった…。もっと後でクリスチヤンになっておけば良かった…」という風なことをおっしゃる方が(少ないながらも)おられるからです。残念ながら、こういった方は、本当の救いの素晴らしさについて…、また、その恵みについて、十分に理解しておられないと言わざるを得ません。何故なら、もし本当に、救いというものの素晴らしさを知ったなら、救いよりも価値あるもの…、救いよりも素晴らしいものなど、決して有り得ないと考えてくださるはずだからです。

果たして、あなたはいかがでしょうか？あなたは、本当に、救いという恵みの素晴らしさについて、十分理解していると言い得るでしょうか？…今日は、前回に続いて、神様の与えてくださる救いの素晴らしさについて見ていきたいと思います。そうすることによって、ここにおられる皆さんがますます…、自分のような者を救ってくださった神様のことをほめたたえる者となっていかれることを願います。聖書のみことばは、エペソ2:11-16までです。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ2:11-16をお開きください。

I・神の祝福に招き入れられた！(11-13 節)

まずは、簡単に、前回の復習をしたいと思うのですが…、先週の礼拝、11-13 節で学んだこと…、それは、神様が私たちクリスチヤンを神の祝福に招き入れてくださった！ということでした。そういうことを、パウロは、私たちが救われる前の状態を思い起こさせることによって、より明確に理解させようしてくれていました。11-13 節には、こう記されてあります。

11 ですから、思い出してください。あなたがたは、以前は肉において異邦人でした。すなわち、肉において人の手による、いわゆる割礼を持つ人々からは、無割礼の人々と呼ばれる者であって、

12 そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他人であります。この世にあって望みもなく、神もない人たちでした。

13 しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです。

パウロは教えてくれていました、「かつてのあなた方は異邦人であって、神様から遠く離れていた。しかし、そんなあなた方は今、キリストの血によって、神様の祝福に招き入れられたのですよ。」って…。確かに、かつての私たちは神様の恵みや契約…、そして、救いといったものから遠い者たちであります。

その昔、フランシスコ・ザビエル(1506/04/07-1552/12/02)が日本で伝道し始めた時、彼は、その当時の日本人たちが犯していた大きな罪を、3つ指摘したのをうです…。⇒①天地を造られた全能の神様の存在を無視している、②男色(=男性同士の同性愛)の罪を犯している、③婦人は簡単に中絶したり、嬰児を殺したりすると…。にわかには信じ難いことですが、確かに、500 年前の日本には、こういったような問題があったようです…。1つ目の罪に関しては相変わらずかも知れませんが…、2つ目と3つ目の

罪に関しては、キリスト教の影響もあって、かなり改善されてきたのではないでしょうか？

こういったことは決して日本だけに限ったことではないと思いますが、どこの国や地域であっても、真の神様を忘れ、人間がその欲望に従って生きていと、様々な問題が起こってきます。現代の日本は、確かに、経済などの分野においては世界有数の先進国かも知れませんが、片や、喜びや平安、靈的な満足といった分野においてはどうでしょうか？…皆さんもご存知のように、つい最近も、ある有名な俳優さん(渡辺裕之)やお笑い芸人(上島竜平)の方が自殺で亡くなったという報道がありました。皆さん、知っています？日本の国の自殺率は、先進国の中ではほぼトップなのです！世界的に見れば9位だったりするのですが、日本以外は政情が不安定であったり…、経済が発展していないなどということで、日本のように平穏無事で便利な国にあって、ここ最近では、交通事故(2019 年は 3,215 人; 2020 年は 2,839 人)の6-7倍の方が、自殺で亡くなっている(2020 年は 21,081 人; 2021 年は 20,830 人)というのです！

私たち人間には真の神様が必要です…。私たちを御造りになってくださった方の御声や、私たちの最善を御存知である方からの御導きが無くては、本当の祝福も平安も無い…、そう、みことばは私たちに教えてくれるので…。

II・敵意を 和解 へと変えてくださった！(14-16 節)

さあ、それでは次のポイントに移りましょう…。神様が与えてくださった救いの素晴らしさ…、その2番目のポイントは、私たちの間にあった敵意というものを、神様が「和解」へと変えてくださった！ということです。それは一体、どういったことなのか、どうぞ、14-16 節をご覧ください。

14 キリストこそ私たちの平和であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、

15 ご自分の肉において、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、

16 また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。

●私たち人間の間にある、『隔ての壁』(=敵意)の問題

先週の礼拝で学んだように、エルサレムの神殿には、「異邦人はこれ以上奥に入ってはならない」とされていた、「異邦人の庭」というものがありました。その周辯を囲っていた、高さ1メートル数十センチの壁のことを、パウロはここで、『隔ての壁』と呼んでいるように思います。実は、1871 年に、エルサレムで考古学上の発見があって…、この壁のところにあった異邦人の侵入を禁じる石が発見されたのです…。そこには、「いかなる國のいかなる人間も、聖所を囲むこの垣と壁の中に入ってはならない。あえて、これを犯す者は、誰でも死罪を受けることになる！」と書かれてあったそうです…。皆さん、どう思われます？これって、單なる区別や注意以上の…、『敵意』というようなものを感じません？

実は、聖書の中で、パウロが異邦人を連れて神殿の中に入ったと、周囲のイスラエル人たちから誤解されたシーンが描かれてありますので、そこをご覧ください。使徒 21:27-32 です、『27 ところが、その七日がほとんど終わろうとしていたころ、アヤラから来たユダヤ人たちは、パウロが宮にいるのを見ると、全群衆をおりたて、彼に手をかけて、28 こう叫んだ。「イスラエルの人々。手を貸してください。この男は、この民と、律法と、この場所に逆らうことを、至る所ですべての人に教えている者です。そのうえ、ギリシャ人を宮の中に連れ込んで、この神聖な場所をけがしています。』29 彼らは前にエペソ人トロピモが町でパウロといっしょにいるのを見かけたので、パウロが彼を宮に連れ込んだのだと思ったのである。30 そこで町中が大騒

ぎになり、人々は殺到してパウロを捕らえ、宮の外へ引きずり出した。そして、ただちに宮の門が閉じられた。³¹ 彼らがパウロを殺そうとしていたとき、エルサレム中が混乱状態に陥っているという報告が、ローマ軍の千人隊長に届いた。³² 彼はただちに、兵士たちと百人隊長たちとを率いて、彼らのところに駆けつけた。人々は千人隊長と兵士たちを見て、パウロを打つのをやめた。』⇒皆さん、分かってくださいました？この当時、もし、異邦人を連れて神殿の奥に行こうものなら、大変な騒動になったはずなのです。

先週の礼拝でも学んだように、イスラエル入たちは、イスラエル人以外の民族のこと…、つまりは異邦人たちのことを毛嫌いし…、見下しては差別し、むしろ憎んでさえいました。でも、そういうことは、イスラエル人たちだけでしょうか？…例えば、ギリシャ入たちは、自分たち以外の民族のことを「野蛮人」と呼んで、イスラエル人たちと同様、毛嫌いしていたそうです。つまり、ここでみことばが教えている『隔ての壁』とは、実際に神殿にあった壁のことだけを言っているのではなく、私たち人間の心の中にあった『敵意』、つまり、お互いのことを蔑み…、憎むような罪のことを指しているのです。

しかし、こういったことは、この時代だけのことでしょうか？今の時代も、同じようなことが、世界の至る所で起こってはいないでしょうか？やれ国が違う！やれ人種や言葉が違う！自分たちが信仰している宗教や神様が違う！あるいは、受けてきた教育や考え方方が違う！背負っている歴史や立場が違う、など。こういったことは国と国…、民族と民族だけの問題ではありません。それこそ、個人と個人においても、こういった問題は起こっています。ご近所同士でも…、学校においても、職場においても、あるいは、ひょとしたら、家族の中でも…。一体、何が原因なのでしょうか？それぞれが皆、何かしら、違っているからでしょうか？ある人は、おっしゃいます？「宗教さえ無ければ…」って…。でも、本当でしょうか？

聖書はこう教えます、「それは、私たちが皆、罪人であるからだ！」って…。ヤコブ 4:1-2 には、こう書かれてあります。『1 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょうか。あなたがたのからだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。2 あなたがたは、ほしがっても自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れることができないと、争ったり、戦ったりするのです。…』と続いています。

良いでしょうか、皆さん！私たち人間が、本当の平安を作り出すために必要なことは、それぞれの違いを無くすことではありません！皆、同じようになることでもありません。相手の違いを認めていくことでも無いし、社会が変わっていくことでもありません。私たちに1番必要なのは、真唯一の神様である、イエス・キリストを信じ、先週学んだように、そのキリストによって新しく生まれ変わらせされることなのです！

●敵意の解決⇒イエス・キリストを信じて 変えられる こと！

その昔、預言者イザヤは、救い主であるイエス・キリストの誕生を預言して、こんな言葉を残しました。イザヤ 9:6、『ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。』って…。まさしく、イエス様は、平和の使者であられました。なぜなら、私たちに本当の平和や平安を…、また、和解というものを与えてくださったからです。今日のみことばの 14 節で、『二つのものを一つにし…』とは、イエス様が、そこに一致を与えてくださったということです。

その次の、『隔ての壁を打ちこわし…』というのも、イエス様が、私たち人間の持つ、『敵意』という壁を打ち壊してくださったということです。だから、ガラテヤ 3:26-28 に、こうあります。『26 あなたがたはみな、キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。27 バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。28 ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隸も自由人もなく、男子も女子もいません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。』

⇒このように、キリストを信じる信仰は、私たちの間にあった、違いや反目…、また、『敵意』といったような壁を、ものの見事に打ち崩してくださいました…。だから、どうぞ、エペソ 3:6 をご覧ください。『その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあずかる者となるということです。』とみことばは教えます。ここで、『奥義』と訳されてある言葉（μυστήριον）は、「ミューステーリオン」という単語で、英語の「ミステリー（奥義、真理、推理小説）」の語源ともなった言葉です。…つまり、パウロたち、ユダヤ人たちからすると、考えもしなかったような…、「異邦人もまた、神の共同相続人となって、同じからだに属するようになり、共に、神様の約束にあずかる」ということです！そのような、一致を神は私たちに与えてくださったのです！

現に今、そのことが起こっているじゃないですか！世界中で、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神であられ…、イスラエルをエジプトから脱出させてくださった神様を、異邦人であるはずの私たちが今、信じ…、礼拝していますよ？それに、例え、国籍や文化、言葉が違っていても、IBC のメンバーたちと一緒に親しくなっていますよ？また、私たちの教会には、つい最近まで、中国人の教会員もありました。でも、私たちは、そういう言葉や文化、習慣の違いを乗り越えて、仲良く…、一致してやってこられたでしょ？…実は、そういうことを神様がなしてくださったのです！

●イエス・キリストが、敵意を 解決 するためにしてくださったこと

今日のみことばの 15 節をご覧くださいと、『ご自分の肉において、敵意を廃棄された…』とあります。そのすぐ後に、『敵意とは、さまざまの規定から成り立っている戒めの律法なのです。』と続きます。確かに、イスラエル入たちはと異邦入たとの間には、様々な『戒めの律法』がありました。前回に学んだように、イスラエル入たちは、「自分たちは神様から与えられた律法がある。自分たちは、その律法を守っているから、神様に受け入れられているし、救われるべきだ…。」などと傲慢にも思い込んでおりました。だから、彼らは、異邦入たのことを、11 節にあるように、『無割礼の人々』と呼んで、バカにしていたのです。イスラエルから見たら、異邦入たは律法を守っていないどころか、律法を与えられてもいないということです。また、それと同じような理由で、イスラエルは、律法を守っていなかつた同胞であるはずのイスラエル入たのことも、「罪人」と呼んで、蔑んでいたのです。

だから、イエス様は、あの「山上の説教」というメッセージの中で、当時のイスラエル入たの間違いを正そうとされたのです！「あなた方は大きな勘違いをしている！大事なのは、行ないではなく、むしろ、心だ！単なる儀式や律法などではなく、神は、あなたの信仰を、あなたの生き方をご覧になっておられる！」って…。

実は、今日のみことばの 15 節で、『ご自分の肉において、敵意を廃棄された…』とありますが、ここで、『廃棄された』と訳されてある言葉（καταργήσθαι）は、「無用にする、役立たずにする、活動しないようにする…」という意味の言葉で、イエス様が、私たちの間にあった『敵意』というものを無意味なものにしてくださったというのです。『ご自分の肉において』とは、「ご自分の肉体によって」（ἐν τῇ σαρκὶ αὐτοῦ）ということです。続く 16 節で、『十字架によって…』という言葉が2回も繰り返し使われていますが、イエス様こそは、ご自分の肉体を犠牲にしてまで…、私たちに平和や和解をもたらしてくださったのです。

例えば、私たちが少し前に学んだ、イエス様と一緒に十字架にかけられた、あの強盗…、彼は十字架にかけられる程の極悪人であったにも関わらず、あの十字架上でイエス様のことをかばいましたでしょう？…また、ピリピの看守は、パウロとシラスから伝道をされて、イエス様を信じて救われた直後に何をしました？使徒 16:33-34 には、こう記されてあります、『33 看守は、その夜、時を移さず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとで、彼とその家の者全部がバプテスマを受けた。34 それから、ふたりを

その家に案内して、食事のもてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。』って…。皆さん、すごくありません？…この看守は、パウロとシラスには、ほとんど会ったことも無かったはずです。それが、イエス様を信じた途端、彼らのことを気遣い…、彼らとの親しい交わりが始まったのです。そうでしょう！

彼らだけではありません！このように、聖書の中には、同じ神様を信じて、同じ信仰を持った者たちが互いに励まし合い、支え合っていたという実例がたくさん記されてあります。そのように、イエス様の十字架は…、また、その信仰は、私たちの間にある『敵意』というものを変えることができるのです。そのことを、今日のみことばである、15-16 節は、私たちに教えてくれているのです。『15 …このことは、二つのものご自身において新しいひとりの人に造り上げて、平和を実現するためであり、 16 また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。』とある通りです。

こんなことを言うと、ある方はおっしゃるかも知れません、「何だ…、結局、皆、キリスト教を信じろというこ^トと同じじゃないか！」って…。しかし、それは違います。だって、同じ…、キリスト教を信仰している者同士でも、戦争を起こしたり、人を殺したりする場合がたくさんあるじゃないですか！…大事なのは、キリスト教という宗教を選び、それを信仰することではありません。…私が言いたいのは、あなたを御造りになられた、真の造り主なる神様を信じ、その神様が遣わされたイエス・キリストを、あなたの神様として、あなたが信じ従うべき御方として信じ受け入れてください！その神様の恵みを受け入れて、その神様によって変えられてください！ということなのです。

残念なことに、実に多くの…、所謂、「キリスト教徒」と呼ばれる人たちは、キリスト教という宗教を信仰してはいても…、聖書のみことばを誤りの無い言葉として受け入れてはいません…。ですから、彼らはキリスト教のルールや慣習にはある程度従ってはいても、心から、神様のみこころを求めて、それに従いたい！とは思っていません。…と言うのは、そこに本当の信仰が無いからです！神様によって、新しく生まれ変わらせられないからです！

何度も言いますように、私たち人間は皆、罪を持っています。残念ながら、それは、イエス様を信じて救われた後も変わりません。皆、自分の思い通りになってほしいし…、人に仕えるのではなく、本当は皆が自分に仕えてほしいのです。…しかし、イエス様を信じ、救われた人は変えられます。Ⅱコリント 5:17、『**それでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。』**と教えられてある通りです。

また、あのパウロは、自分自身に起ったことを、こんな風に証ししてくれています。I テモテ 1:13-15、『**13 私は以前は、神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者でした。それでも、信じていないときに知らないでしたことなので、あわれみを受けたのです。 14 私たちの主の、この恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに、ますます満ちあふれるようになりました。 15 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。』**⇒確かに、あのパウロは、本当の信仰を持つ前…、『(真の)神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者』でした…。でも、パウロが本当に救われてから…、神様によって新しく造り変えられてからは、どうだったでしょうか？彼は、もはや、神をけがす者ではなく、どんな状況にあっても「神をほめたたえる者」へと変えられたのです。確かに、彼は以前、クリスチャンを迫害する者でした。暴力をふるう者、いのちを奪う者だったのです(使徒 7:58-8:1)。しかし、そんなパウロが、神様によって変えられたので、信仰を持って以降、パウロは如何なる暴力をもふるわないし、逆に、どんな暴力に屈しない者へと変えられていったでしょ！

しかし、こういったことは、私たち人間の力では不可能です。天の神様が、私たちを変えてくださるのです。そのためにも…、まず、すべての人に必要なのは、すべてを造られ、全能なる真の神様を信じ受け入れて、救われてくださることです！そうすると、神様が皆さんを用いて…、変えていってくださいます。そう、みことばがはっきりと約束してくれています！

何より、ここにおられる皆さん、そのことの生き証人じゃないですか！私だけじゃなく皆さんもまた、この神様によって変えられたはずです！イエス様を信じる前の…、自分中心の、「自分さえ良ければ…」というような考え方から、聖く正しい神様のみこころを求め、「この神様に倣って生きていきたい！この神様に喜ばれることをしていきたい！」と願う者へと、皆さんも変えられたはずです。

確かに、完全ではありません。救われたからと言って、その瞬間から、何も悪い思いや誘惑が無くなるわけではありません。…だから、先程、引用したみことばで、パウロも、『…私はその罪人のかしらです。』(I テモテ 1:15)と告白していましたでしょ？…かつての私たちは、自分さえ良ければ良かったのです。他人との競争で、自分が勝利したかったし…、人が自分に対して、“一目”置いてくれることを願っていたのかも知れません…。人と比べて、まあまあ、自分が平均点というか…、それほど良い人間でなくても、それに何の問題も感じなかったのです。…しかし、真の神様を知り…、真の神様を信じると、まず、自分自身の罪深さが示されます、「何と、自分は罪深く、愚かなのだろう！」って…。聖い神様が、あなたに罪を示してくださいます。だから、私たちは、「もっと聖くなりたい！」と願うのです。

あの「山上の説教」で、イエス様は、「神様の目から見て幸いな者…、つまり、救われた者たちが持っているはずの特徴を次のように挙げてくれています。『3 「心の貧しい者は幸いです。… 4 悲しむ者は幸いです。… 5 柔和な者は幸いです。… 6 義に飢え渴く者は幸いです。… 7 あわれみ深い者は幸いです。… 8 心のきよい者は幸いです。… 9 平和をつくる者は幸いです。… 10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。』(マタイ 5:3-10 の抜粋)

⇒皆さん、自分の心の貧しさに、日々心を打たれ、悲しんでおられます？あるいは、義に飢え渴いておられます？…本当は、もっと正しいことを、神様に喜ばれることをしていきたいのに、それができない！「神様、どうか、こんな罪人の私がもっと神様にみこころを行なえるように変えてください！」そう祈っておられるでしょうか？…あるいは、皆さん、天の神様がそうであるように、あわれみ深く…、あるいは、積極的に平和を作ろうとしておられます？また、皆さん、日々、義のために迫害されます？イエス様のためだったら、どんな犠牲もいとわない！と思っておられます？

＜励ましの言葉＞

イエス様を信じて、本当に救われた者たちは、天の神様が、日々キリストに似た者へと変えていってくださいます。だから、そのような人たちは皆、自分の内にある罪を嫌うし、そのことを悲しむのです。…このように、天の神様は、救われたあなたに、神の基準というものを示してくださいます。だから、本当に救われたクリスチャンは、確実に変えられていきます。…と言うのは、その人は、その人自身の努力ではなく、神様によって変えられていくから…。

聖書のみことばはこう教えます、『**18 私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のよう^に主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御靈なる主の働きによるのです。』**(Ⅱコリント 3:18)って…。救われた…、その瞬間から、神様はあなたと共に居て、あなたをより神様に喜ばれる者へ…、キリストに似た者へと変え続けていってくださるのです！それこそが、神様のなしてくださる、救いの御業です。

どうぞ、この神様を信じ、神様にすべてを委ねて…、神様のみことばを愛する者へとなっていってください。神様は、必ず、あなたを益々、キリストのように…、愛でもって、人を変えることができる者へと変えていってくださいます。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。